

2024 年度「さわやか交流会」「産業遺産学会総会」開催

去る 2024 年 11 月 15 日大阪セルロイド会館に於いて 2024 年度「さわやか交流会」が開催されました。

今回は出席者 32 名と何時も以上の盛況となりました。まず例年通り物故者への黙祷、主催者の挨拶、出席者の自己紹介などが行われた後に講演会となりました。

先ず登壇されたのがスワン印の水中眼鏡でお馴染みの山本光学(株)取締役会長の山本雄才氏が「めがねとセルロイド」として偉大な発明の一つにレンズがあり、それによって眼鏡がつくられ枠に木材、金属などとともセルロイドが使われたという話をされました。

次に同じ山本光学(株)専務取締役の山本剛士氏が「快適な安全に向けての商品開発として」との題名で如何に苦労を重ねて水中眼鏡を製作してきたかを話されました。

三番目の登壇となりました(株)ダイセルイノベーション・パーク所長の隅田克彦氏は「セルロイドの歴史とダイセル異人館」として、セルロイドが如何にして誕生し成長し日本を代表する産業となったか、その過程において指導を行った外国人技術者のための宿舎が現存していて活用も行っているという話をされました。

続いての登壇となりました元(株)ダイセル執行役員の高橋郁夫氏は「バイオマスのセルロースによる価値創造と期待」として金沢大学と研究を進めていますバイオマスの可能性について話されました。

最後の登壇となりました元(株)ダイセル常務取締役企画開発本部長の渡加裕三氏の「企業の存続・発展を左右する商品開発」という講演は、光学活性(キラル)化合物を例に取り如何に商品開発が重要であるかを熱弁されました。

講演の後には懇親会となり、色々な方が集まっての懇談が行われた後にお開きとなりましたが、最後に関西プラスチック資材協同組合副理事長の宇田川清志氏がユニークな手締めが行われて場を和ませてくれました。

松尾副館長は翌 16～18 日に岡山県倉敷市及び笠岡市に於いて開催されました産業遺産学会総会に出席しました。

16 日に行われました研究発表会は特別講演としてノートルダム清心女子大学名誉教授の上田恭嗣氏が会場となりました倉敷市が如何にして発展したか、どのような方が尽力されたかを話されました。

続いての登壇となりました松尾副館長は、やはり特別講演として「セルロイドの歴史と産業遺産としての存在意義」を発表しました。セルロイドが如何にして誕生したか、どのような産業遺産を遺したかの話はセルロイドサロンに掲載しますので、興味を持たれました方はそちらもご覧になってください。

研究発表としては九州国際大学名誉教授の清水憲一氏による「産業遺産初代門司駅関連遺跡の価値づけ」、北海道科学大学横山貴志氏による「旧深名線沼牛駅保存活動継承マネジメントに関する研究 - 小規模自治体における担い手づくりの視点から」、釧路工業高等専門学

校平澤宙之氏による「点群測量による雄別炭鉱病院の遺構調査」がおこなわれました。

産業遺産紹介として早稲田大学の阪東峻一による「戦間期における事務所ビルの部材保存の経緯と歴史 - 東京中心部の事例を中心に」と、元NHKディレクターの村上裕康氏が初代岡山放送局と建築家内藤多仲とが行われました。

平澤氏と阪東氏は「セルロイド産業文化基金の助成を受けており、それぞれの方より謝辞をいただきました。

17、18日は現地見学会が行われ17日は高度経済成長時代に数多くつくられました臨海鉄道の一つである水島臨海鉄道の調査が行われ普段は入れない場所や、乗れない機動車に乗車出来るなどの体験が出来ました。

18日は大坂城、日本銀行本店、三越本店などに使われている石の島として知られている北木島向かい採石場や、かつての映画館、郵便局などを見学しました。

さわやか交流会、産業遺産学会総会ともに無事に終わりましたことに謝辞を表しまして終わりいたします。